

第26回 山梨県介護老人保健施設大会抄録用紙

演題	通所リハビリテーションとしての役割の再考
副題	活動量重視の運営転換

フリガナ	カイゴロウジンホケンシセツフルリームカワ
施設名	介護老人保健施設フルリームむかわ
フリガナ	カイゴフクシシ タンザワ ナオ
発表者(職名・氏名)	介護福祉士 丹澤 奈央
フリガナ	ツウショリハビリテーション ショクインイチドウ
共同研究者	通所リハビリテーション 職員一同

**【目的】**

昨今、超高齢社会を迎え、住み慣れた地域で安全に生活するために通所系サービスの必要性を強く感じている。通所リハビリテーションの役割とは何か。ご利用者様とご家族様は何を目的に通所リハビリテーションを利用するのか。今回、ご利用者様の背景にある活動量低下や廃用症候群に着目し、通所リハビリテーションとしての役割を再考しなおし、活動量重視の運営転換を行った。通所リハビリテーションの役割として、身体機能向上を目指す場であること、圧倒的な活動量を確保する場と位置付け、実施した取り組みをここに報告する。

**【方法】**

これまで当通所リハビリテーションでは午睡(昼食後の1時間30分程度の臥床時間)を実施してきた。午睡の方法として、①曜日ごとにその日のご利用者様に対し、午睡希望を一人ずつ確認、②職員が周知できるように午睡希望のご利用者様の名前を専用のホワイトボードに記入、③訓練用のプラットホームなどを移動し、午睡用ベッドを置く場所を確保、④希望者の数に合わせて午睡用ベッドを用意、⑤季節によって掛布団を用意、⑥口腔ケア後にご利用者様をベッドまでの誘導を行っていた。今回、活動量重視の運営転換として午睡の廃止を実施した。午睡を廃止した時間は、マシントレーニングにあて、TRX

Suspension Training (以下、TRX)という全身運動を行う機器を導入した。セラピストの個別介入だけでなく、活動と参加に焦点をあて、集団運動の充実を図った。また、ICTの活用として、iPadなどのタブレット機器を使用して職員の業務効率の向上にも努めた。

**【結果】**

午睡を廃止し、昼食後からマシントレーニングを誘導したことにより、ご利用者様の活動量を増加することができただけでなく、上記に列挙した午睡のための業務の削減により、職員がご利用者様に関わる時間を確保することができた。また、通所リハビリテーションの位置づけとして、ご利用者様やご家族様の認識を「運動する場所」というものに変えることができた。直接的な関わりとしてのTRXでの集団運動や間接的な関わりとしてのiPadを使用した業務効率を図ったことにより、総合的に利用者様の運動時間・量の確保を実現することができたと考える。

**【まとめ】**

今回、通所リハビリテーションとしての役割を再考し、活動量重視の運営転換を行った。ここで述べた取り組みを今後も継続して実施し、今後も職員一同、ご利用者様の身体機能向上、活動量向上に努めていきたい。